

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 3 1 原作シナリオ

山崎浩治

マンガ「片町夜曲(セレナーデ)」 # 3 1 原作シナリオ

1 「金沢プライベート・リサーチ」室内

臨月の女性(30代)がオネエ所長に話している。

依頼人「夫の浮気相手から電話があったんです」

× ×

インサート。

自宅で電話を受けている臨月の女性。

電話の声「ご主人に女がいますよ」

× ×

依頼人「よろしくをお願いします(と一礼して退室していく)」

オネエ所長「(サオりにファイルを見せ)このイケメン亭主、サオリのタイプじゃない？」

調査ファイルに夫の写真と「xx株式会社営業部課長」とあるのが見える。

サオリ「(一瞥もせずに)結婚指輪という首輪をつけた誰かの飼い犬に興味ないわ」

2 ホテルから出てくる車(別の日の夜)

調査ファイルの写真の男(俊)が若い女と乗っている。

その光景を車の運転席から撮影しているサオリ(助手席にはオネエ所長)。

オネエ所長「簡単にしっぽを出したわね」

サオリ「(無表情に撮影した写真を確認している)……」

3 オネエ所長のマンション・リビング

杏子が菜摘に物語を語り聞かせていた。

杏子「昔々、王子様とお姫様が幸せに暮らしていました」

オネエ所長「ただいま(と入ってくる)」

杏子「ところがある日、王子様が『ぼく、女になりたい』と突然言い出して、お城を逃げ出し、森の魔女になったのです」

菜摘「(オネエ所長を見て)あ、森の魔女」

オネエ所長「(ズッコケて)杏子はなんて話をしてるのよ！」

杏子「(平然と)おとぎ話もリアルな方が面白いでしょ？ (腰を上げて菜摘に)このお話の続きは今度またね」

オネエ所長「今夜はなっちのシッター引き受けてくれてありがと」

杏子「それじゃあたしは……」

オネエ所長「杏子に聞きたいことがあるの」

4 同・ダイニング

硬い表情で何か話しているオネエ所長と杏子。

#5 とあるワンルームマンションのフロア(別の日の夜)

ドアが開いて、スーツ姿の俊が出てきた。

物陰に隠れて、俊をやり過ごすオネエ所長と杏子。

オネエ所長、俊が出てきた部屋のドアをノックした。

女のOFF「話はもう終わったわ」

ドアが開くと、現れたのはサオリだった。

サオリ「(廊下に立っているオネエ所長を見て)さすが探偵ね」

オネエ所長「誰かの飼い犬に興味ないって言ったくせに」

#6 サオリの部屋

サオリとオネエ所長、杏子がテーブルで向かい合っている。

サオリ「あの人と付き合ってること、いつ気付いたの？」

オネエ所長「彼はサオリが以前勤めてた会社の直属の上司。なのにサオリは何も言わなかった……」

x x

インサート。

俊の写真とファイルに見える「xx株式会社営業部課長」の文字(#1)。

オネエ所長のOFF「杏子にも聞いたのよ」

#7 オネエ所長のマンション・ダイニングキッチン(#4の続き)

話し合っているオネエ所長と杏子。

オネエ所長「サオリには彼氏いるよね？」

杏子「いるみたいだけど、クリスマスや誕生日はいつも一人。あれは不倫よ」

オネエ所長「……やっぱり」

#8 もとのサオリの部屋

サオリ「二人して、どうせ『不倫はやめろ』って言うんでしょ」

オネエ所長「不倫はほめられたことじゃないわ。サオリは彼の奥さんから訴えられるかもしれない。慰謝料を請求されても文句は言えない。それだけのことをしてるのよ」

サオリ「(悲しげに目を伏せて)そんなこと、分かってる……」

杏子「でも好きになる気持ちは誰にもとめられない。この人が『女になりたい』と言って森の魔女になったのと同じ」

サオリ「何よそれ」

杏子「サオリがあの人のことを本当に愛しているというなら、あたしは世界中を敵に回してもサオリのことを応援するよ」

サオリ「(驚いて杏子を見て)お母さん……」

オネエ所長「あたしたちはどんなことがあってもサオリの味方」

サオリ「おっさんまで……離婚したくせに仲良しなんだから」

杏子「(照れて)離婚したってサオリの親であることは変わらないの」

サオリ「ありがとう、二人とも……でも彼とはさっき別れたわ。世界を敵に回して戦うほどの男じゃなかったから」

9 レストラン(サオリの回想)

密会しているサオリと俊。

俊「女房とはもうダメなんだよ」

サオリ「それならクリスマスやあたしの誕生日は一緒にいて」

俊「(狼狽して)いや、それはちょっと。いま、プロジェクトが……」

サオリのOFF「奥さんが妊娠してることも、あたし以外に別の女がいることも知ってたわ……」

10 もとのサオリの部屋

杏子「彼の奥さんに電話したの、サオリだったんでしょ」

サオリ「お母さんは何でもお見通しね」

オネエ所長「女にはみんな探偵の素質がある。特に母親は名探偵よ」

× ×

インサート。街角で電話しているサオリ。

サオリ「ご主人に女がいますよ」

サオリのOFF「あたし、不倫関係を清算したかったのかな」

× ×

サオリ「(オネエ所長と杏子に)隠し事しててごめんね」

杏子「今日はサオリの失念記念日。とことん飲むか！」

サオリ「お母さんもそろそろ秘密、打ち明けて」

11 病院に入っていく杏子の後ろ姿(回想)

その姿を離れたところから見守っているオネエ所長とサオリ。

サオリ「いつまでお母さんの病気のこと、知らん顔してるの？」

オネエ所長「杏子が隠すつもりなら、あたしはそれに付き合う。サオリも約束して。杏子の前では絶対に泣かない。悲しい顔もしない」

12 もとのサオリの部屋

サオリ「(涙が滲んで)知らん顔しているのは、もう限界」

オネエ所長「杏子のことだから、あたしたちに心配させたくないと思って黙っていたんでしょ。

でも病気の時くらいワガママになりなさい。杏子とは離婚しても、いまも家族だと思っているん

だから」

杏子「(ふっと微笑み)……(その瞳から一筋の涙が伝った)」